

平成23年度 第4回健康日本21 福岡市計画推進会議専門部会  
「健康づくりセンター見直し委員会」議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年8月8日（月）18：30～20：15
- 2 開催場所 福岡市役所 本庁15階 1503会議室
- 3 会議次第

- 1 開会
- 2 議題
  - ①福岡市健康づくりセンターの機能再構築について  
～ 第4回 ～ 総括
  - ②新・健康づくりセンターに関する提言（素案）について
- 3 閉会

- 4 出席委員 全員（9名）
- 5 傍聴者 6名
- 6 議事概要

議題 福岡市健康づくりセンターの機能再構築について  
～ 第4回 ～ 総括

【 ① 】 第1回会議から第3回会議までの振り返り（資料1～4ページ）  
（質問・意見） 特になし

【 ② 】 新・健康づくりセンターに関する提言（素案）について  
（質問・意見）

委員 | これまで、健康づくりセンターの機能再構築について議論してきたわけだが、機能が大きく変わるということであれば、その運営主体である健康づくり財団のあり方も本来は議論すべきではないだろうか。

事務局 | 健康づくり財団については、健康づくりセンターを開設する際、その運営主体としてはどのような形が望ましいのか様々な検討を重ねた結果、最も適切な運営が図れる団体として設立されたものである。

センターの機能を一次予防から、二次予防、三次予防も含めた総合的な施設へ転換した場合、前回と同様に、それに相応しい運営主体についても今後検討していく必要があると考えているが、本委員会の中ではそこまでの議論は想定していない。

委員 | 健康づくり財団ではなく、たとえば医師会など他団体に運営を委託する、そういった選択肢もありうるということですよ。

- 委員      ここで検討するのは、あくまでセンターの機能ということであるが、市への提言の中には「今後、運営主体も再検討すべき」という文言も入れるべきだろう。
- 委員      提言の11ページだが、糖尿病予防支援システムの図中「地域医療機関（かかりつけ医）」とあるが、成人病センターなどの「かかりつけ医から紹介を受けて診察等を行う専門医療機関」との役割分担や連携はどうなるのか。
- 委員      かかりつけ医等と連携しながら治療を行っている成人病センターなどの紹介型の専門医療機関についても、本システムの中では新・健康づくりセンターと連携する一医療機関として「かかりつけ医」側に位置づけられるのだろうが、栄養指導のノウハウなどを有している面を考慮すれば、ここで言う地域のかかりつけ医と全く同じ立場とはならないと思う。
- 委員      近年のように、病診連携、病病連携が進んできている現状を考慮すれば、図に明確に示した方が良いのではないか。
- 委員      このシステム図には描かれていないので、かかりつけ医と専門医療機関の関係などを含め、図を修正すべきだろう。
- 委員      糖尿病予備群の方が新・健康づくりセンターを利用することが重要。「利用」の部分をもっと強調したほうが良い。
- 委員      センターにいかに人を集めるかが重要であり、誰もが利用しやすいような工夫が必要だが、試行的に実施しながら進めていくべきだと思う。
- 委員      健康づくり財団の平成23年度事業計画の中に、調査・研究事業のひとつとして「糖尿病患者等実態調査」とあるが、これは今回のシステム構築に関係があるのか。
- 事務局      本年度実施予定の本調査については、予算的な面からも大規模な調査は出来ないが、システム構築にあたっての参考資料のひとつにはなると思う。
- 委員      健診（検診）についてはどうか。がん検診の取組み強化や、短時間で健診ができる体制の構築などについても、この提言の中にもっと言及する必要があると思う。特に乳がん検診については無料クーポン制度もあるが、まだまだ受診者は少ない。マンモグラフィ等の設備も必要だと考える。
- 委員      医療機関ではないところで健診を実施する効果もある。特定健診とがん検診を同時実施できる施設は少ない。
- 事務局      市内で特定健診、胃がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診が一度

に受診できる場所は、16医療機関及び7保健所である。なお、乳がんと子宮頸がん検診が同時に受けられる医療機関は19箇所となっている。そもそも、マンモグラフィの可能な施設は市内に36箇所しかない。

委員 マンモグラフィというのは、1施設で一日に実施できる回数は非常に限られている。また、女性ドクター、女性技師でなければ受診しづらいという面もあり、なかなか受診率が伸びない。人材確保の面や費用面の問題もあるかもしれないが、やはりそういう検診も実施できる設備にして、市民が検診を受けやすい環境の充実を図っていただきたい。

委員 歯科も重要なポイントではないか。歯周病対策は生活習慣病に大きく関わるし、既に現在のセンターには歯科のブースもある。歯科医師会の協力を得て、歯科医師を交代で派遣していただくという方法もあるのではないだろうか。

委員 情報発信機能も重要である。たとえば、センター利用者については、最初の1回目は来所が必要だが、2回目以降はセンターのホームページにアクセスすれば様々な健康情報が得られるだけでなく、会員登録により自分の健康状態を確認するとともに、その状態に応じた適切なアドバイスが受けられるなど、そういったシステムの構築が望ましいと思う。

委員 提言の最後にある「新・健康づくりセンターの名称」だが、やはり名称は改めた方が良好だろう。機能再構築後のセンターが、市民にとって分かりやすく、大いに利用したくなる名称に変えるべきだと思う。

委員 ここでは、あえて具体的な名称は言及しないでいいだろう。ただし、委員会としてはそういった趣旨で名称変更について提言させていただければ良いと思う。

事務局 本日、皆様から頂いたご意見等を踏まえ、あとは委員長と十分に協議したうえで提言（素案）を修正し、後日改めて案を皆様に送付させていただきます。それで特に問題がなければ、今回の会議を最終回とさせていただきたいと考えております。

委員 異議なし。